

## 第6回公開講演会

# 松江城天守国宝指定の秘話—国宝指定の決め手は—

平成28年2月7日（土）

会場 島根学習センター 3階 第一講義室

講師 稲田 信 氏（松江市史料編纂室）



平成28年2月7日、島根学習センター3階の第1講義室において公開講演会「松江城天守国宝指定の秘話 [国宝指定の決め手は]—国宝・松江城天守完成時の祈禱礼と堀尾氏の宗教的背景—」が、講師として今回の国宝化に向けて文字通り陣頭指揮をとられた松江市史料編纂室の稲田信氏をお迎えし、膨大な参考資料と写真資料を駆使して行われました。

### 1. はじめに

昭和3年、松江城天守は松江市に移管された。昭和10年に当時制定されていた国宝保存法によって国宝に指定されたが、昭和25年文化財保護法の施行によって文化財の見直しが行われた際、松江築城完成の年代を特定できる史料がなかったため、重要文化財に変更された。近年、松江開府400年事業で国宝化に向けての機運が高まり、次に述べるような経過を辿り、ついに平成27年7月8日に国宝に指定された。

従来の国宝指定の考え方とされていたものに、次の4分類の代表的な物が指定されているという見解があった。①天守だけのもの（独立式—犬山）、②天守に櫓などを附属したものの（複合式—彦根、犬山、松江）、③天守から渡り廊下や多聞櫓を小天守や櫓に渡したものの（連結式—松本）、④天守と小天守群または櫓群を連結したものの（連立式—姫路）

### 2. 松江城の調査と新たな知見を得て国宝指定に至る2つ流れ（平成21年～22年）

#### （その1）

松江市長がマニフェストで国宝化運動を発表、「松江城を国宝にする市民の会」発足、新たな知見を得るため松江城国宝化推進室設置と「松江城調査研究委員会」の発足（所在不明の祈禱礼、大手門写真に500万円の懸賞金を懸ける）、西和夫氏らによる松江城調査と調査成果の積極的な公表による特徴的な建築構造の解明。

#### （その2）

史料編纂室設置と「松江市史編集委員会」の発足により、松江市史編纂基本計画による10年計画の「松江市史編纂事業」（全18巻）と悉皆的な史料調査の開始、松江に関する全国的で学際的な調査・研究ネットワークの形成などが挙げられる。

### 3. 後世の文献で語られてきた松江城築城に関わる史料

松江城築城の頃の同時代史料（一次史料）はこれまでほとんど見つかっていない。「島根県史」（1929）と他の文献資（史）料記載での松江城築城に関わる記述内容と比較すると「千鳥城取立古説」（18世紀初頭に成立か）、「雲陽大数録」（1767～1782）、「千鳥城築城とその城下」（1906）などに僅かに見られるが、いずれも1世紀以上後に編纂されたものであるため正確性に疑問が残されていた。



### 4. 城戸論文の指摘と祈祷札の再発見およびその掲示されていた場所

1) 天守の創建について、昭和41年「仏教芸術」60号において、城戸久氏が松江城天守祈祷札の存在について発表されている。非常に重要な指摘であるので少し引用する。

「ただ筆者は、昭和十二年七月、この天守を実測調査した際に、左のような祈祷札が四階に所在したことを見出している。二枚あって、当時一枚は読了出来たが、他はかすかに慶長十六の記年が判読されるばかりであった。長三尺、幅四寸七分、厚二寸七分の檜板の表に

慶長十六 曆 欽  
梵字 奉読誦如意珠経長栄処  
正月 吉祥日 言

とあり、裏面には文字はない。この祈祷札は恐らく古記に照らして、天守完成の時と認められ、それが慶長十六年（一六一一）正月であったことを確認させるまことに重要な資料である。（昭和三十年発行の重要文化財松江城天守修理工事報告書にこの祈祷札の存在が掲げられていないのは、不審であって、その後紛失したものか、どうか。よって敢えて、ここに紹介したわけである。）」

2) 松江市は市内寺社史料調査によって、平成24年5月21日松江神社からついに祈祷札を発見した。祈祷札は次の二枚があった。

- ・「奉轉讀大般若経六百部武運長久処」 祈祷札・・・大山寺
- ・「奉讀誦如意珠経長栄処」 祈祷札・・・？

3) 祈祷札が再発見され、天守の創建は慶長十六年正月と確証することができた。しかし、この祈祷札が果たして松江城のものかどうかは記載がない。そこで、祈祷札について

いる釘穴と祈祷札が打ち付けられた柱があるかどうかの調査が進められた。そうすると早い段階で地下1階に高さや位置が一致する柱が見つかった。周りの柱は天守修理工事のと きほとんど入れ替わっていたので、この柱が残っていたのは、正に奇跡というしかない。このことが国宝化に向けて確固たる証拠となった。

## 5. 祈祷札と堀尾氏の宗教的背景など

松江城を築城した堀尾氏は高野山奥の院（和歌山県）に一族の墓所を設け、松江城の鬼門（北東）には真言宗千手院、裏鬼門（南西）には真言宗報恩寺を配置するなど、真言宗との関係が極めて濃いことを示された。松江城築城時加持祈祷や宗教的背景、その後の宗教的行為の系譜も見えてくるかも知れない。

また、築城に際し行われた三態、三様の祈祷（鎮物 三点、鎮宅祈祷札 四枚、祈祷札二枚、附指定の意味）を解説され、現在に伝わる4枚の松江城古写真について撮影年などを解明された。

## 6. おわりに

明治27年、市民有志の手によって松江城は崩壊の危機を免れた。松江城を大切に思う市民の心には歴史がある。松江市史編纂室では平成21年の設置以来、計画に沿った「松江市史」の刊行と、基本調査、付帯出版物の刊行を行ってきた。ここから見えてくる松江市域の最大の特徴は、古代から現代に至るまで島根県の政治権力の中核が置かれた場所であり、山陰の政治、経済、文化の中核地であったことである。

そのため、松江市には驚くほどの貴重な歴史史料が数多く残されている。今後とも継続的な史料調査と研究体制の必要性を実感している。（文責・小汀政徳）

